



春の訪れを感じる今日この頃、皆さん、いかがお過ごしでしょうか、溝口幸治です。  
 この会報は毎回、定例県議会後に発行していますが、二月定例県議会が二月十四日から三月二日まで、その後、熊本県知事選挙が三月八日から二十五日の日程で行われましたので、今回は四月に発行することになりました。  
 熊本県知事選挙は蒲島郁夫知事が二期目の当選を果たされました。  
 投票率は過去最低の38.44%！この数字に

**四月二日、政令指定都市くまもと誕生！  
 県政の発展、地域活性化のため、  
 県民全体でチャレンジを！**

対する見方はそれぞれにあると思いますが、県の役割、県のあり方を今一度考えなおす機会だと捉えています。  
 昨今の政治情勢を見る時に、国の統治機構のあり方についても色々な角度から見直すべきではないかと思うことがしばしばあります。  
 国の役割、県の役割、基礎的自治体の役割、常に進化する必要があります。  
 「国と地方の役割を見直し、それぞれの責任と機能強化を図り、地方と国家の双方の活力



が生まれる仕組みを作っていく「国家的に考えていく重要な視点だと思っています。」  
 さて、四月一日には熊本市が政令指定都市としてスタートしました。九州新幹線全線開業や熊本市の政令指定都市移行といったビッグチャンスを最大限に生かし、県政の発展地域の活性化につなげていくため、県政の発展でチャレンジしていくことが重要です。そのためにも県の役割、市町村のやる気と知恵が重要です。  
 熊本県全体のことはもちろんですが、県南地域の発展のために今後も汗をかいて行きたいと思っています。  
 皆様からのご意見、ご提案、お待ちしております。  
 熊本県議会議員 溝口幸治

**TEAM-11の一員として福島県を訪問しました**



自民党青年局は、東日本大震災被災地の復興を後押しするため、平成24年2月からTEAM-11 (チーム・イレブン) をスタートしました。  
 毎月11日、小泉進次郎青年局長と青年局の国会議員、全国11ブロックの代表が被災地を訪ね、仮設住宅にお住まいの皆さんのお話を伺い、復興の現場に足を運びます。  
 「継続は「絆」なり」、です。私たちは毎月の行動を通じて被災地の困難に向き合い、課題の解決に全国で取り組みます。  
 二月十一日には小泉進次郎青年局長(衆議院議員)、熊谷大青年局長代理(参議院議員)、森まさこ青年局顧問(参議院議員)、中泉松司青年局中央常任委員会副議長(秋田県議会議員)と福島県を訪問しました。  
 除染作業の現場視察(午後/福島市内)、仮設住宅にお住まいの皆さんとの対話集会(午後/福島市内)、市民の皆さんとの対話集会(午後/福島市内)に同行しました。  
 これからもできるだけ被災地に足を運び、私達に何ができるのか考え行動して行きます。

自民党青年局中央常任委員会議長就任記念

**溝口幸治 新春の集い**

KOJI MIZOGUCHI

みなさまのお志に感謝致します。  
 ありがとうございました。

平成24年2月5日、自民党青年局長・小泉進次郎衆議院議員をお招きし、新春の集いを開催いたしました。当日ご出席いただいた皆様、ならびにご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

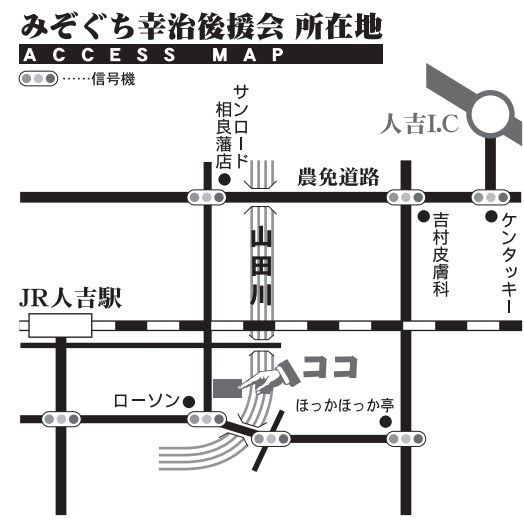


▼編集後記  
 「万里一空」。宮本武蔵の『五輪書』の「山水三千世界を万里一空に入れ、満天地とも攪(と)る」という一節で使用されている言葉です。この世にあるすべてのものは、同じ空の下にあり、全てのものは一つの世界に留まっているという考え方です。動揺せず、常に冷静な気持ちで事に当たり、一つの目標に向かって精進するなどの意味として解釈されることもあるようです。混迷を究める国の政局も、今一度冷静な気持ちで、日本国民に向き合ってしっかりとした政治を行なって欲しいものです。<K.T>

この会報のお問合せは  
**溝口幸治事務所**  
 人吉市駒井田町1952-34  
 tel 0966-22-5800  
 fax 0966-22-5802  
 http://www.k-mizoguchi.com  
 E-mail:office@k-mizoguchi.com



発行 溝口幸治事務所  
 記載責任者 富山孝治



# 道徳教育用郷土資料「熊本の心」 ～提案したことが形になりました～

平成二十一年六月の一般質問で私は道徳教育の進め方について質問しました。

●戦後教育の荒廃や我が国の社会の急激な変化に伴い、子供を取り巻く環境も大きく変化し、規範意識の低下や倫理観や社会性の不足など、さまざまな問題が指摘されており、子供たちの将来にわたる人間性を培うためにも、道徳教育をより充実させることが求められている。

●新しい教育基本法にも、豊かな情操と道徳心を培うことが新たに教育の目標に入り、これまで以上に道徳教育に力を入れていく方向性が示された。

●これまでも県では「助けあい 励ましあい 志高く」の熊本の心が浸透するような取り組みが行われ特に、昭和六十三年に完成した道徳教育用郷土資料「熊本の心」は、学校現場の先生方からも高い評価を得ている。

●しかし、作成されてから二十年以上が経過し、そろそろリメイクの時期を迎えているのではないかと思う。

## 国宝の品格を感じさせる 参道の景観整備ができました。 ～提案したことが形に～

平成21年度に熊本県商工団体等による経済活性化促進事業を人吉商工会議所で受けて頂き「国宝青井阿蘇神社及びその周辺地区を対象とした地域力再生プランを策定されました。そのプランに沿って、この度、青井阿蘇神社の南側の蓮池周辺の参道と景観が整備されました。国宝としての品格を感じさせる出来栄です。



●特に小中学校においては、本年度から、道徳教育の推進の中心となつて担う道徳推進教師を位置づける、高等学校においては、平成二十年度からの実施に向けて、道徳教育について全体計画を作成すると聞いている。

●また、熊本県教育振興基本計画くまもと「夢への架け橋」教育プランの中でも、道徳教育の充実が掲げられております。

●そこで、県としての道徳教育のさらなる推進に向けた組織体制づくりと新たな教材作成について、教育長の考え方を尋ねる。

この質問をきっかけに県教育委員会で道徳教育用郷土資料「熊本の心」の新版の発行に向けて取り組みを進めてきました。

関係者の皆様のご尽力によりすばらしい「熊本の心」が完成しました。いよいよ平成二十四年春から新版発行とのことです。

各学校に本とDVDを配布をされます。是非、ご活用下さい。



## インターンシップ を振り返る

インターンシップでは県議の方や人吉で地元の方など多くの人と接することができました。また、溝口事務所の方々とともに活動をした。にさせていただき沢山お話ししました。時には落ち込むこともありましたが、自分たちのためにこんな一生懸命動いて下さる人がいるのだと感じ、もつと頑張ろうと思えました。多くの人に支えられながら学べたことを誇りに思い、これから先今まで以上に何事にも頑張っていきたいと思います。

熊本大学一年 川口 晃奈



## 「第二十九号 幼年国語教育会だより」掲載 子どもの笑顔が溢れる 地域づくりの実現を目指して

私が所属する自由民主党熊本県議団ではここ数年、子供に関わる政策について熱心に議論を重ねてきました。

平成十九年度には先に作成していた家庭教育十力条を基に、「熊本県子ども輝き条例」を制定しました。

この条例の特徴は子どもの人権や権利を守るとは当然のことであるだけでなく、そのことだけを強調するような条例ではなく、子どもの保護者は、子育ての第一義的役割を担うものということをうたい、新教育基本法の趣旨も十分に踏まえました。また、日本人が昔から大切にしてきた感謝の心、奉仕の心、調和の心がしっかりと踏まえてあり、我々が家族のきずなの中で我々の宝である子供に親あるいは大人が手本となって教え伝えていく重要性を示した条文となっております。

さらに我々は近年、親と子の関係、発達障害への対応などの課題解決のために高橋史朗先生をお招きしての勉強会を自民党県議団、県の関係部署、教育委員会と共に開催してきました。

その結果、県では「親の学びプログラム」を作成し、現在、取り組みを進めているところです。加えて、高橋史朗先生が提唱される「親学」という視点をもつと広げていくために、昨年の十一月に党所属の国会議員、県議会議員、保守系の市町村議員に呼びかけて熊本県親学推進議員連盟を組織しました。

今年度は親学推進協議会とも連携を深め事業を展開する予定です。子どもたちの笑顔が溢れる地域づくりを実現するためにこれからも積極的に活動してまいります。

熊本県議会議員  
熊本県親学推進議員連盟 副会長 溝口幸治



二か月間、溝口県議のもとでインターン活動をし、多くの貴重な経験をさせていただきました。情報を鵜呑みにせず自分で選択することの大切さを教えていただき、そのためには自分の物差しを作ることが大切だということを感じました。これからも様々なことを自分の五感で感じ自分の中の物差しを作っていきたいです。二か月間本当にありがとうございました。

熊本県立大学一年 松原 恭平

私はこのインターンシップで積極的に、また意欲的に行動することの必要性をとて感じました。そのことに気づけたからこそ、このインターンシップでは多くのことを学ぶことが出来たと思います。

熊本大学一年 手塚 美咲



私は、インターン活動を通して主体性を磨くことができたとともに実際に現場を訪れることの大切さを学びました。メディア等で目にする内容が本当に正しいことなのか、その背景を自分の目で見ることで感じ方は変わってくるのがわかりました。活動中に議員とお話しをして感じたことは私の一生の財産です。

熊本大学一年 増田 友鳳

